

「学ぶ土台づくり」推進計画の評価

資料 ③-2

目 標	施 策	具体的な取組	評価（実施状況・成果）
1 親子間の愛着形成の促進	1 親子のかかわりの促進（重点事項）	<ul style="list-style-type: none"> ○親子のかかわりの重要性についての啓発 ○親子の共同作業を促す取組 ○家族行事、梶への積極的参加 ○父親の育児参加の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○平日に子どもと触れ合う時間が1時間以内と回答 父親の割合 H23年度 70.7% → H25年度約54.1%に減少 母親の割合 H23年度 22.3% → H25年度 28.7%と増加傾向 ○子どもと触れ合う内容について 父親では「本の読み聞かせ」「外遊び」などの割合の増加 母親では「外遊び」「ひらがな・数字の学習」など割合が増加 ◎意識的、積極的に子どもに関わろうとする傾向が見られる ◇一方で、父親、母親ともに「テレビやビデオをみる」と回答した割合も増加している。 ◇親子のふれあいの重要性を科学的見地により啓発するリーフレットの作成・配布、あるいはブックスタートや親子遊びの講座等をとおして、親子のかかわりの重要性や望ましいコミュニケーションづくりの普及啓発が進められている。 ◇「親育ち」のためのプログラムや講座の開設、子育てサポーターの育成などをとおして、子育て中の親を支える体制づくりの整備が進められた。 ◇中学生や高校生等の親になる前の世代に対して「親になるための教育」を推進するなど、子育てに関する知識や心構えを身につけ、子どもを理解する力を涵養することができた。また、「みやぎっ子応援隊“すくすくエールズ”」による県民運動が展開されるなど、社会全体で子育てを進める機運が醸成されつつある。 ◎親が意識的、積極的に子どもに関わることの大切さを学ぶ機会を提供するとともに、これから親になる世代に将来の子育てを肯定的に捉え、主体的に子育てに関わっていく素地をつくるため、保育体験や子育てについて学ぶ機会を提供するなど、親子間の良好な愛着形成の構築に向けた取組を継続的に実施する必要がある。
	2 親の育ちを支援する環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○親自身の学びの機会の提供 ○社会全体による家庭への支援 ○将来の「親」育て 	
【施策1 親子のかかわりの促進（重点事項）】[H25]		【施策2 親の育ちを支援する環境づくり】[H25]	
<ul style="list-style-type: none"> ○「学ぶ土台づくり」普及啓発事業 <教育企画室> ○市町村子どもの読書活動支援事業 <生涯学習課> ○中小企業ワーク・ライフ・バランス支援事業 <雇用対策課> ○「女性の力は企業の力」普及推進事業 <共同参画社会推進課> 		<ul style="list-style-type: none"> ○「学ぶ土台づくり」普及啓発事業 <教育企画室> ○協働教育基盤形成事業（家庭教育支援）<生涯学習課> ○子育て支援を進める県民運動推進事業 <子育て支援課> ○次世代育成支援対策事業 <子育て支援課> ○地域子育て支援センター事業 <子育て支援課> ○「女性の力は企業の力」普及推進事業 <共同参画社会推進課> 	

目 標	施 策	具体的な取組	評価（実施状況・成果）
2 基本的な生活習慣の確立	3 社会総がかりの取組による基本的な生活習慣の確立（重点事項）	<ul style="list-style-type: none"> ○ “はやね・はやおき・あさごはん” の励行 ○ 生活習慣づくりに関する家庭支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「午後 9 時以降に寝る」回答の割合 H23 年度 65.4% → H25 年度 54.4%と 10 ポイント減少 ○ 朝食の摂取（毎日食べている）割合 96%から 97%で推移し、良好な傾向にある。 ○ 朝食の内容について 「主食」、「主菜」、「副菜」が揃った朝食の割合 H23 年度 43.1% → H25 年度 37.9%まで減少 「主食」又は「主食とその他」の朝食の割合 H23 年度 23.7% → H25 年度 29.3%まで増加 ◎ 栄養バランスの良い食事を摂取する子どもの割合が減少の傾向にある。 ◇ 親向けには「はやね・はやおき・あさごはん」励行の重要性を啓発する講座の開催や科学的視点に基づき作成したパンフレットの配布などとおして、基本的な生活習慣の確立を促進してきた。 ◇ 子ども向けには「はやね・はやおき・あさごはん」などの大切さを子どもに直接理解させる副教材（DVD）を制作・配布するなどにより、規則正しい生活の実践を促した。 ◇ 幼児向けの新しいダンスを創作し、子どもが身体を動かすこと心地よさ楽しさを実感し、運動の習慣化を促進することができた。 ◇ 仕事を持つ親がしっかりと子育てに取り組めるようにするためには、企業等の理解が必要であることから、新聞意見広告の掲載や講演会の開催等とおして、基本的な生活習慣の確立を社会全体で取り組むことの重要性を啓発することができた。 ◎ 引き続き、基本的な生活習慣の確立に向けた取組を推進する必要があるが、特に、栄養バランスの良い朝食を摂取することの大切さを啓発するなどにより、心身の健全な育成を促していく必要がある。また、親の生活習慣が子どもに与える影響は少なくないことから、ワーク・ライフ・バランスを視野に入れた社会全体の取組が必要である。
	4 体力の向上と食育の推進による望ましい食習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外遊び等のすすめと運動習慣の定着促進 ○ 食育の推進 	
	5 ワーク・ライフ・バランスの促進	○ワーク・ライフ・バランスを意識した子育て支援の啓発	
3 社会総がかりの取組による基本的な生活習慣の確立（重点事項）	4 体力の向上と食育の推進による望ましい食習慣の確立	5 ワーク・ライフ・バランスの促進	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣定着促進事業 <教育企画室> ○ はやね・はやおき・あさごはん推奨運動 <教育企画室> ○ 「学ぶ土台づくり」普及啓発事業 ○ 食育・地産地消推進事業 <食産業振興課> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ みやぎの子ども体力運動能力充実プロジェクト <スポーツ健康課> ○ 基本的な生活習慣定着促進事業 <教育企画室> ○ みやぎの食育推進戦略事業 <健康推進課> ○ 食育・地産地消推進事業 <食産業振興課> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協働教育基盤形成事業（家庭教育支援）<生涯学習課> ○ 中小企業ワーク・ライフ・バランス支援事業<雇用対策課> ○ 「仕事」と「家庭」両立支援事業 <雇用対策課> ○ 「女性の力は企業の力」普及推進事業 <共同参画社会推進課> ○ 子育てにやさしい企業支援事業 <子育て支援課> 	

目 標	施 策	具体的な取組	評価（実施状況・成果）
3 豊かな体験活動による学びの促進	6 人とかかわる体験の充実（重点事項）	<ul style="list-style-type: none"> ○親子参加プログラム及び情報の提供（自然体験交流活動など） ○「何も（し）ない」体験プログラム（能動的活動を促す取組）の提供 ○地域資源・人材の活用とネットワークづくり ○異世代・異年齢交流の促進 ○伝承遊びの普及を通じた地域の人とかかわる機会の提供 	<p>○子どもが遊ぶ場所について「室外」又は「どちらかといえば室外」と回答した割合は、14%～19%で推移しており、外遊びの機会が少ない状況にある。</p> <p>○片付けや掃除、洗濯物をたたむなどの手伝いを「いつもしている」又は「時々している」と回答した割合 → 90%を超えている。</p> <p>○水遊びや虫捕りなどの自然体験を「いつもしている」又は「時々している」と回答した割合 → 70%台とやや低い状況にある。</p> <p>◇高齢者や中学生、高校生徒等とふれあう異世代交流・地域間交流を促進することにより、子どもが地域社会の中で人間性や社会性を培う取組を推進した。</p> <p>◇幼児を対象に、自然の家での自然体験宿泊活動をとおして、自立心や協調性、感性を育成するとともに、その幼児の親に対して、自然体験活動の効果を体験的、理論的に学ぶ機会を提供した。</p> <p>◎幼児期は身体の諸機能が著しく発達する時期であり、この時期に身体を動かす習慣を身につけると、体力や運動能力が向上するだけでなく、その後の成長や健康増進にも大きな影響を与えることから、室外で思い切り身体を動かす機会を増やす必要がある。</p> <p>◎子どもの頃の体験が豊富な大人ほど「規範意識」や「自尊感情」も高い人が多いことが分かっていることから、引き続き生活体験や社会体験、自然体験などの多様な体験機会の充実を図る必要がある。</p>
	7 遊びの環境づくり	○安全・安心の遊び場づくり	
6 人とかかわる体験の充実（重点事項）		7 遊びの環境づくり	
<ul style="list-style-type: none"> ○協働教育推進総合事業 <生涯学習課> ○豊かな体験活動推進事業 <義務教育課> ○グリーン・ツーリズム促進支援事業 <農村振興課> ○児童健全育成事業 <子育て支援課> 		<ul style="list-style-type: none"> ○協働教育プラットフォーム事業（地域支援活動） <生涯学習課> ○放課後子ども教室推進事業 <生涯学習課> ○公民館等を核とした地域活動支援事業 <生涯学習課> 	

目 標	施 策	具体的な取組	評価（実施状況・成果）
4 幼児教育の充実 のための環境づくり	8 幼・保・小の連携と小学校への円滑な接続（重点事項）	<ul style="list-style-type: none"> ○連絡協議会などの体制整備 ○シンポジウム・ワークショップ開催による啓発 ○就学前の相互交流 ○幼保一体化に関する情報提供 ○研修の充実 ○上級免許・資格の取得と免許・資格の併用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの日々の生活や学びの連続性を確保するため、ほとんどの幼稚園・保育所において小学校に就学時の引き継ぎを行っている。 ○幼児教育の課題や現況に対する認識を共有し、適切な対応と相互の連携を図るため、小学校との間に連絡協議会等を設置していると回答した幼稚園・保育所等の割合は、60%程度となっている。 ◇子どもの発達を長期的な視野で捉えるとともに、それぞれの教育内容や指導方法について相互理解を図るため、幼稚園・保育所・小学校が連携、合同して研修会を開催した。 ◇モデル地区に指定された市町村において、乳幼児検診等で発達障害の疑いのある未就学児を早期に発見し、関係機関が連携して、適切な支援を継続的に行うことができた。 ◇行政と幼稚園・保育所等の教育現場が連携した支援ネットワークの構築や子育てに関する情報を掲載したハンドブックの作成・配布、子育てサークルの支援や子育てサポーターの養成など、地域における支援体制の充実が着実に推進されている。
	9 特別支援教育の推進と理解の促進（重点事項）	<ul style="list-style-type: none"> ○特別な支援を必要とする子どもの早期発見のためのシステムづくり ○特別な支援を必要とする子どもへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◎幼稚園・保育所・小学校の連携が必ずしも十分に図られていない状況にあることから、教育現場における一層の連携強化が必要である。 ◎幼児教育の充実を図る上で、幼稚園教諭や保育士の専門性の確保は重要であるが、現在の研修状況については、回答者の20%以上が満足していないと回答している。その主な理由としては、「仕事が多忙で研修会へ参加する時間がない」、「研修会に参加した時の補欠体制が難しい」となっており、多様化する親や社会のニーズに的確に対応するためにも、職員の資質を向上させる研修機会の確保が求められている。
	10 地域における支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○地域における教育ネットワークの整備 ○NPOとの協働 	
8 幼・保・小の連携と小学校への円滑な接続（重点事項）	9 特別支援教育の推進と理解の促進（重点事項）		
<ul style="list-style-type: none"> ○学ぶ土台づくり普及啓発事業 <教育企画室> ○幼・保・小連携推進事業 <義務教育課> ○保育士研修事業費 <子育て支援課> ○幼稚園等新規採用教員研修事業（教職員 CUP 事業）<教職員課> ○10年経験者研修事業（教職員 CUP 事業）<教職員課> 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達障害早期支援事業 <特別支援教育室> ○特別支援教育地域支援推進事業 < " > ○教育相談事業費総合教育センター費 < " > ○乳幼児精神発達精密検診及び事後指導事業<子育て支援課> ○心身障害児発達・療育支援事業 <子育て支援課 > ○子どもメンタルサポート事業 < " > 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達障害者支援センター事業 <障害福祉課> ○障害児（者）相談支援事業 < " > ○「学ぶ土台づくり」普及啓発事業 <教育企画室> 	
10 地域における支援体制の充実			
○協働教育基盤形成事業（家庭教育支援） <生涯学習課>	○地域子育て支援センター事業 <子育て支援課>		